

組合 NEWS

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
金沢大学教職員組合執行委員会
金沢市角間町
Tel.076-262-6009 (FAX同じ) / 角間内線2105
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org/

2011年11月25日

通巻 1175号

この号の内容

- 駐車場有料化問題 1P
- 手取りキャニオンロード ツーリング報告 4P

駐車場有料化は《筋違い》 大学案ではバス積み残しが悪化

11月10日、キャンパス整備委員長、施設管理部長などから、駐車場有料化の具体的内容、理由/根拠等について説明を受けました。説明は到底納得できる内容ではありませんでした。大学側の主な説明を報告します。

大学説明 1 受益者負担

駐車場利用者は全教職員の3割であり、利用者が利用料を負担すべき。

反論: 車通勤者の通勤手当は公共交通利用者よりも低額であり、既に経費削減に寄与しています。ガソリン価格高騰の影響で赤字となるケースもあるなか、課金は更なる負担を強いることになり、不公平です。

大学説明 2 公共交通機関の利便性の向上

補助金等を出してバス利用者の利便性の向上に努める。

反論: 大学が主張する受益者負担に反し、明らかにダブルスタンダードです。また、バス増便計画の具体的な提案は一切なく、説明責任は果たされていません。

大学説明 3 安心安全のキャンパスの実現

照明の改善、駐輪場の整備などを実施する。

反論: これも受益者負担の原則に反します。

大学は一見、車通勤者に限る問題として説明しようとしています。しかし、今回の「受益者負担論」には将来的な不安を覚えます。例えば、「駐輪場整備は自転車通勤/通学者、歩道の除雪は徒歩通勤/通学者、地区の照明は各地区所属の教職員の受益者負担」などの論理が提示される可能性は否定できません。

この問題は車利用者だけではなく、全教職員そして学生にかかわる問題なのです。

そもそも、全教職員/学生からの意見聴取、バス利用者の実態把握などが極めて不十分ななかで提案された駐車場有料化の提案を受け入れることは出来ません。

(検討経過の詳細は、第68,69回財務企画会議、第52回キャンパス整備委員会の議事録でご確認いただけます。)

*詳細は次ページをご覧ください。

学生からも徴収するの？

大学の有料化案

年 額

教員 6000円

学生 3000円

有料化の主な理由

受益者負担
安心安全のキャンパス実現

実施時期

2012年4月の可能性もあり

駐車場有料化に反対します

申入れ書を提出しました

11月17日付で学長、キャンパス整備委員長に対して、駐車場有料化に反対する申し入れを行いました。主旨は以下のとおりです。（なおこれは、2011年11月10日、教職員組合事務所に於いて行われた、キャンパス整備委員会委員長の説明を受けて提出したものです。）

以下の理由から駐車場有料化に反対します

1. 有料化の理由が不明である

1-1. 「7対3」の不公平は存在しない

大学側の説明は、「駐車場の除雪や駐車場の整備にいくばくかのお金がかかっている。これを駐車場利用者に負担してもらおう。なぜなら、駐車場利用者は、金沢大学教職員・学生の3割であり、公平性が保てない。ゆえに受益者負担とする」というものである。

しかし、駐車場の除雪費用に残り7割から不平が出たという事実はない。アンケート調査なども行われていない。

大学側の説明によれば、有料化の目的の一つはバス利用の促進だが、一方、2012年4月以降のバス増便に関して、具体的案は、現時点で一切ない。有料化によって何%かの学生・教職員がバス利用に切り替えると想定される。即ち、バス積み残しが恒常化している現況がさらに悪化すると予想される。

不公平が解消されると云われるがバス利用者はこの事態を望んでいない。なお、有料化計画を立案するにあたり、何%の学生・教職員がバス利用に切り替えるか、大学側はそのデータを開示すべきである。

1-2. 車通勤者は大学の経費を無駄遣いしているのか？

車利用者の通勤手当は公共交通利用者と比較して低額である上、ガソリン価格高騰のために

赤字が発生しているケースも見られる。通勤手当が低額である車通勤者は大学の経費削減に貢献しているにもかかわらず、さらに駐車場利用料を徴収することは二重の負担を強いることになり、「公平性」の観点からもふさわしくない。

1-3. 「大学説明の受益者負担論（利用者負担論）」はダブルスタンダード

大学は徴収した金額を駐輪場やキャンパスの照明整備に活用すると説明している。

駐輪場の整備は大学の予算で行われている。駐車場に関しては受益者負担で、駐輪場はそうでないとしたら、新たな不公平が発生する。

さらに学生寮や職員宿舎は、受益者はいくばくかのお金を払っているが、多くは大学の予算で維持されている。学生寮や職員寮の利用者は全体の3割よりもはるかに少ないはずだ。

駐輪場や学生寮・職員宿舎等の問題を棚上げにして、多くの方が利用する駐車場を受益者負担とするならば、その理由を大学側は説明する義務がある。

1-4. 宝町キャンパスとの不公平

第52回キャンパス整備委員会議事概要には、既に有料化されている宝町キャンパスとの公平性をはかるとある。しかし、立地条件が異なる角間キャンパスと宝町キャンパスを比較することには問題がある。宝町であれば、街中であり、夜間でも歩いて帰宅することができる。バスの本数も多いし、タクシーもつかまりやすい。角間では夜間一人歩きは危険であり、バスの本数も少ない。タクシーも呼ばなければこない。

宝町キャンパスの駐車料金（18,900円/年）は極めて高額である。なぜこんなにも高額なのであろうか？大学側は説明する責任がある。

宝町キャンパス駐車場は、受益者が高額な駐

車料金を負担しているにもかかわらず、利便性は極めて悪い。他の地区でも同様の事となると予想される。

宝町との公平性を訴えるのであれば、まずは宝町キャンパスの駐車料金の値下げを実行すべきである。

2. 金沢大学角間キャンパスの特殊性

大学側は、他大学でも有料化しているのだから、という思惑があるかもしれないが、間違っている。金沢大学角間キャンパスの特殊性を無視している。

一つは、バスの積み残しが恒常化している点である。他大学に倣って、という発想であれば、まず他大学のように、安心してバス利用ができるよう環境を整えるべきである。

ちなみにバス利用促進を一目的とする駐車場有料化計画立案にあたり、現在、バスの積み残しがどのくらい発生しているか、大学は調査済みであろうから、そのデータの開示を求める。

3. 駐車料金の設定法と用途

有料化した場合、受益者の払った駐車料金は駐車場整備のみに使われるべきものであるから、その用途は1円単位で公開されるべきであるが、大学側からそうした方針は示されていない。

また、駐車料金の設定は、除雪費用を勘案しているが、除雪費用は毎年変動する。除雪量が長期的には減少していることを鑑み、何年かの単位で駐車料金を見直し、時に駐車料金値下げを行うべきであるが、大学側からそうした方針は示されていない。

4. 教育への影響

繰り返しになるが、角間地区に於いては、バス積み残しが恒常化しており、1限に遅刻する学生が多数いる。駐車場有料化にあたり、バスの増便の具体案は示されていない。1限に遅刻する学生が今以上に増えることは必至である。

なお、学長・理事・キャンパス整備委員長・

交通計画作業部会長に於かれては、朝8時半過ぎに若松から大学行きのバスにご乗車いただきたい。また、4限もしくは5限直後に、自然研前から金沢駅行きのバスにご乗車いただきたい。

最終決断の前に、学生が如何に劣悪な状況で通学しているか、肌で感じて頂きたい。

5. 労働条件の不利益変更

駐車料金の設定は、教職員にとって、事実上、通勤手当の減額である。また、「3」に示した通り、大学側からの説明では、今後駐車料金は値上がりする可能性がある。今回の駐車料金の設定は、事実上労働条件の不利益変更である。

したがって、労働者と合意することなく実施する事は出来ない。また、不利益変更には「高度の必要性」が求められる。

6. 学生に対する説明不足

学生に関しても同様で、今まで無料で使うことが前提の施設の有料化は、現役学生とその親にご理解いただく説明をすべきである。

また、受験生にも周知を計るべきである。仮に、2012年度新入生の親御さんに「駐車料金が設定されるとは、オープンキャンパスで一切云っていなかった」と抗議された場合、大学のどなたが責任もって説明するのだろうか。

7. 県道の安全性の確保

大学側の説明では、「駐車料金は駐車場の設備に使い、その分、県道の照明等整備に回す」とのことであったが、もし県道が危険と大学が認識しているのであれば、2012年4月を待たず、いまずぐ県道の処置をすべきである。

予算がないのであれば、大型事業を見直し、それも削れないのであれば、学長手当・理事手当を返上しても県道の整備を今すぐ行うべきである。それが未成年の学生を預かっている国立大学法人金沢大学の責務である。

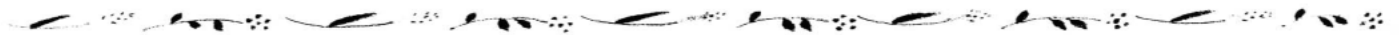
10月29日★ 〈手取キャニオンロード自転車ツーリング〉に参加して

10月29日に初めてのイベント、サイクルトレインで行く！「手取キャニオンロード自転車ツーリング」を開催しました。天候に恵まれて絶好のサイクリング日和でした。大自然の中、サイクリングをしながら景色を楽しみました。参加者は大人8名、子ども2名、計10名でした。参加者の感想をご紹介します。



新企画のツーリングでは天候に恵まれ、秋を満喫しました。まず集合場所の野町駅まで軽いサイクリングを楽しみます。ここから初のサイクルトレイン体験です。しかしあっけなく鶴来駅に到着してしまい、サイクリングを再開します。先導に従い白山ひめ神社、弘法池と進みます。ここの即売所で一袋百円のむかごを購入。これは帰ってから炊き込みご飯にして食べました。そしていよいよ昼食処のソバ屋に到着です。名物の大きな掻き揚げがのったソバを（酒はガマンして）賞味しました。掻き揚げよりもソバが美味しかったので、次はここへざるそばを食べに行こうと思います。昼食後は綿ヶ滝へ向かい、紅葉には少し早かったのですが景色を楽しみました。帰りは白山神社前茶店で「おやき」を食べ、鶴来の町でリンゴ蒸しパンをお土産に買い込み、鶴来駅で解散です。私はここから家までサイクリングして帰りました。帰宅後、水筒に詰めてきた白山神社の名水を沸かし紅茶を堪能しました。手取キャニオンロードは未就学児でも体力の問題なく安全に走れるコースであり、普段自転車に乗らない方にもオススメです。

星野 伸明（経済学経営学系）



案内の「サイクルトレイン」の文字に惹かれ、息子たちと3人でこの自転車ツーリングの企画に参加しました。北鉄野町駅に集合し、電車に自転車を載せる喜びを味わいながら鶴来駅に向かいました。

駅からはいよいよツーリング。心地よい秋風を感じながら各々愛車に乗り、目的地の綿ヶ滝まで15kmの旅を楽しみました。ツーリングの途中、名水百選の弘法池に立ち寄り少し休憩。いい塩梅の負荷を感じながらまたペダルをこぎ続けました。昼食は「みたき」というお蕎麦屋さんで。天気も良く、自転車が好調だったこともあり、予定より早く入店。御座敷に座り、息子たちと一緒に蕎麦の到着を楽しみに待ちました。参加した皆さんと話をしていると、この店一番人気の「かき揚げ天ぷらそば」が登場。たくさんの野菜をつつんだ大きな天ぷらに圧倒されながら美味しい蕎麦を堪能しました。綿ヶ滝では、水のしぶき、川の流れにリラックス。息子たちは平たい石を見つけ水切りを楽しんだようです。

美味しいものをいただきながら、手取キャニオンロードを自転車で走るこの企画、とても良かったです。皆さんありがとうございました。

三宅 和憲（特別支援学校）

